審判員のモチベーションに関する一考察
―バレーボール競技を視点として―

佐野　翔基　(競技スポーツ学科　コーチングコース)
指導教員　鳥羽　賢二

キーワード：モチベーション，マズローの５段階欲求，内発的動機付け

１．はじめに

スポーツ競技は，当然ながら選手が主となり執り行われるが，ゲームを裁く審判員というのはなくてはならない存在であり，試合の勝敗に関わる大きな役割を担っている．

近年のスポーツ関連機器の進化により，バレーボール競技には，2014 年の世界選手権よりチャレンジシステム[1]が導入された．これはゲーム途中にジャッジで審判の誤審が明らかになってしまうケースがある．誤審が明らかになっても，審判員はゲーム終了までモチベーションを高く維持し，正確なジャッジを努めなければならない義務がある．

そこで本研究ではバレーボール審判員はこのような環境の中で，モチベーションはどういったところに起因し，具体的にどうやって維持しているのかを明らかにすることを目的とする．

２．研究方法

1)文献調査：バレーボール審判員関連，人のモチベーション（マズローの５段階欲求説）に関わる文献を講読し，要点をまとめる．

2)FIVB[2]公認のレフェリー（国際審判員）を対象とし，マズローの５段階欲求説より得た知見をもとに，半構造化面接法によるインタビュー調査を実施．

3)上記のエビデンスをもとに，審判員のモチベーションに関して考察する．

３．調査結果と考察

審判員を続けていくうえで，家庭や職場等の周囲による協力が必要不可欠であることが理解された．表１はそれぞれにおいてどのような負担がかかっているのかをまとめたものである．

周囲の人にさまざまな負担を補ってもらい審判員を続けていくことができている．あくまでも家庭や職場を基盤としての審判員なのである．つまり，国際審判員でさえ生業とはならないことが分かった．

表１　家庭と職場へかかる負担（筆者作成）

家庭	職場
①仕事を家に持ち帰り，代わりにやってもらう	①ボランティア休暇制度
②有休を試合のために使ってしまう	②抜けた穴の代役
③休日に家を空けてしまう	③要望への対応
④家庭サービスがおろそかになる（子の養育など）	

４．まとめ

バレーボール審判員のモチベーションは，審判をする中でのさまざまな事象に大きく起因している．選手による称賛，レベルの高い選手とのつながり，大きな国際大会に関わること，人脈が広がることで多くの情報を得ることなどが挙げられる．それらが自己成長のための刺激とつながっている．このことは，実は審判をすることで帰属欲求や承認欲求を満たすための活動であると言える．

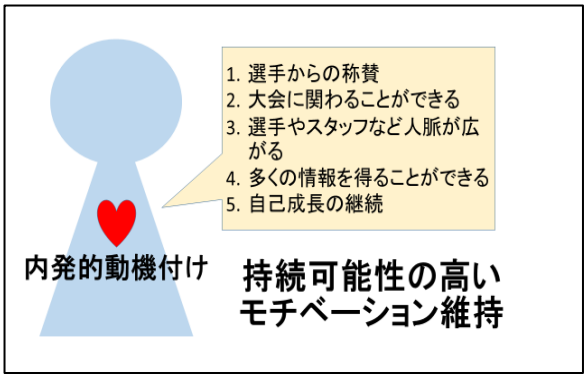

図１　国際審判員の内発的動機付けによるモチベーション維持（筆者作成）

図１に示したように審判員自身がその行為や活動を実践することは，ほとんどの場合主体的に行っている．

このような「内発的動機付け」によるモチベーションは高い持続可能性を生むといえよう．

主な引用・参考文献
日本バレーボール協会ホームページ
https://www.jva.or.jp
国際バレーボール連盟ホームページ
www.fivb.com

[1] チームの監督がゲーム中にビデオ判定を要求できるシステム．副審が映像を確認し，その場で再ジャッジするというもの．各チーム１セットで２回まで要求が可能．

[2] 国際バレーボール連盟のこと．本部はスイスに置かれている．バレーボール競技の国際統括団体．